

第45回 札幌市PTA広報紙まつり 全体審査評

ご応募くださいました広報担当の皆様、お疲れ様でした。そして、受賞された広報担当の皆様、おめでとうございます。3年間にわたるコロナ禍の中にあっても、広報紙まつりが継続でき、また久しぶりに直接お礼や感想をお伝えできる表彰式が行えることになり、大変嬉しく思います。

従来からの対面方式のほか、オンラインやLINE等、SNSの情報手段も用いてやり取りするなど、苦勞して一つの作品を作り上げてこられた皆様の心意気に胸を打たれました。

今回も個性引き立つ素晴らしい作品ばかりでした。審査委員一同、①PTA活動紹介②企画性・アイデア③全体（見やすさ・読みやすさ）のバランスの3観点で審査いたしました。

◎ 「読みたくなる」がポイント！

ある編集後記に「読みたくなる広報紙づくりを目標に意見を出し合い、役割を分担し、楽しみながら活動しています」とありました。この「読みたくなる」「楽しみながら」が活動の目的すべを物語っていますし、どの作品にもそれが表れていたように思います。

広報紙づくりでは費用対効果が話題になり、「高い予算をかけた割には…」という声も聞きます。ですから、広報紙には見出し・色づかいなど、読んでもらう工夫は必要です。区役所やコミュニティセンターのロビーにある刊行物にも「統一感のある色づかい」「見出しの特集」など「手に取ってもらう」工夫が満載です。広報紙づくりの参考になる部分も多いかと思います。

◎ 「とても楽しかった」でバトンタッチ！

今回も「旬でリアルタイムな記事」等、興味をひく構成でした。雑誌同様、表紙から「手に取ってみよう」という気持ちになるかが一番の鍵です。テーマを掲げクイズ風に、お子さんの写真をアップで、教職員の顔を加工して、学校行事や作品を掲載し、玄関下の角度から撮り見出しを強調、花々や校舎を背景に特集の見出しを強調する等、工夫には枚挙のいとまがありません。

広報紙づくりには予算や時間がかかり、学校便りやホームページでも足りるとの指摘もありますが、詳細なPTA活動の状況は、やはり「PTA発」でありたいですし、学校・家庭・地域を結ぶのはPTAの重要な役割の一つでもあります。

広報紙への意識変化、世代間ギャップもありますが、今の時代だからできる“負担の少ない新しい広報スタイル”を目指し、「思ったより楽しかったよ！」と次の方に明るく語り継いでいただき、広報紙づくりの灯を絶やさず、「継続・復活」してくださることを心から願っています。

◎ 広報紙復活の「のろし」を上げて！

「学校での顔合わせが減り、横・たてのつながりが薄くなった」と、ある編集後記にありました。これはこの期間の「現場からの真実の声」でしょう。しかし、単Pの活動が自粛・活動停止を余儀なくされた中でも、3年ぶりの広報紙再開との嬉しいニュースも伝わり、「底を打った広報紙づくりが復活する気配・雰囲気・流れ」を私なりに確実に感じ取っています。

卒業アルバムで学校の歴史を刻むように、広報紙もPTA活動の歩みを記す重要な一コマです。ぜひ皆さんの力で「復活ののろし」を上げ、「復活のメッセージ」の幕を切ってほしいものです。

ご尽力いただきました市P協広報委員会、役員並びに事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

審査委員長 村上 直史（北海道通信社 参与）